

# ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの つながりをデータに基づいて検証する

橋本智也

京都光華女子大学 EM・IR 部

## 背景と目的

日本では、教育の質保証を確立させるものとして、三つのポリシーに貫かれた学士課程教育の実現が求められ、学校教育法施行規則の一部改正（2016年3月31日公布）により、施行日である2017年4月1日以降、全ての大学等は三つのポリシーを一貫性あるものとして策定し、公表することが義務化された。三つのポリシーに基づく自己点検・評価にあたっては、可能なものについては可視化に努めることが求められるとともに、大学の諸活動についてのデータを収集・分析して大学の意思決定を支援する調査研究（IR）を充実させることが期待されている（中央教育審議会大学分科会大学教育部会、2016）。

そして、三つのポリシーのうち、とくにディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP）は一体性・整合性が強く求められるとともに、ポリシーの策定単位（学位プログラム等）レベルだけでなく科目レベルにおいても各教員が DP・CP を踏まえた授業改善活動を行うことが重要とされる（中央教育審議会大学分科会大学教育部会、2016）。

このように、IRの活用による DP と CP の一体性・整合性の検証が期待されているものの、具体的にどのような方法で行うかは知見の蓄積が十分ではない。そこで本発表では、データに基づいた検証方法の事例として京都光華女子大学の取り組みを報告する。具体的には、**①** 学科・専攻単位（学位プログラム）レベルと **②** 科目レベル（各教員の授業改善活動）で DP、CP、科目のつながりを量的な面で検証するための材料として、DP を提供科目の単位数の配分割合という観点で可視化したものを IR 部署が作成・提供した。なお、本発表は橋本（2016）で報告した内容に、その後の取り組み内容を加えたものである。

## 方法

カリキュラム表（学内での名称「カリキュラム・マップ」）を基に、学士課程答申で示されている学士力の参考指針の四分類（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）それぞれに配分されている科目の単位数の割合を算出した。対

AAAA学科カリキュラムマップ																		
科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号														
			学内(授業内外)の学習活動の証明(単位数を0.5したときの配分)	凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相対的な関連性がある (1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
AAAA学科 ディプロマ マポリシー	1. 知識・理解	①女性の多様な生き方・働き方と*****を理解している。 ②社会、文化、人間に関する幅広い知識に基づき、*****ができる。 ③企業や公共組織の経営資源と、*****を理解している。																
	2. 汎用的能力	④情報リテラシーを身につけ、*****効果的に伝えることができる。 ⑤現代社会の諸問題について論理的に考え、*****ができる。 ⑥*****を活用できる。																
	3. 態度・志向性	⑦建学の精神(真実心)を理解し、*****ができる。 ⑧*****のため、生涯にわたって学び続ける力を身につけている。 ⑨*****を身につけている。																
	4. 統合的な学習経験と創造的思考力	⑩ビジネスや地域の課題を解決するための*****を身につけている。																
00000000000000	女性を取り巻く社会環境と多様なキャリアを知る	1. 他者の生き方を好意的に受け入れる力を身につける	60							◎								
		2. 女性を取り巻く社会環境を理解する	20			◎												
		3. キャリアビジョンをまとめる	20														○	
00000000000000	女性を取り巻く社会の現状を理解し、キャリア形成に必要なスキルを身につける	1. 女性の現状をデータに基づき理解する	30			◎												
		2. 女性を取り巻く法律を理解する	50									◎						
		3. 男女共同参画の理念を理解し活用することができる	20														◎	
		4. 女性の経済的自立がキャリア形成に与える影響を理解する	20														◎	

図1 京都光華女子大学のカリキュラム表（イメージ）

象科目は学科・専攻が提供している全科目とした。

京都光華女子大学では、図 1 のように、学士力の参考指針の四分類に沿って DP を策定し、さらに、カリキュラム表で DP と各科目の関係の度合いを 2 種類の記号「◎」（強い関連性）と「○」（相当程度の関連性）によって表現している。単位数の割合の算出にあたっては、「◎」と「○」をそれぞれ 2 点と 1 点に換算した。

## 結果と考察

単位数の配分割合を学士力の四分類単位で算出した結果を図 2 に、また、同割合を DP の項目単位で算出した結果を図 3 に示す(値は架空)。前者は①の検証、後者は②の検証の資料として作成した。また、学科・専攻の要望により、必修・選択別の集計等も行った。それらの資料を IR 部署が学科・専攻に提供し、DP、CP の記述内容に対して実際に提供している科目の量が適切であるか等が検証可能であることを伝えた。教学担当の副学長からは学科・専攻に対して、これら量的な側面の資料を参考に、DP と CP の一体性・整合性について、まずは議論を行うよう依頼が行われた。趣旨は環境の整備であり、具体的な検証・改善は今後の課題となっている。

他大学での応用の観点からは、単位数の配分割合を算出するにあたり、方針と科目の関係性を明示すること(記号「◎」等)と、関係性の基準を関係者間で同意しておくことの必要性が挙げられる。京都光華女子大学では、両方を従来からカリキュラム表で実施してきたが、とくに後者については義務化を踏まえた三つのポリシーの見直し作業の段階で、関係性の基準を明確化するとともに、全学科・専攻共通でその基準に同意した(全学的意思決定会義で基準の明確化作業を承認、教務委員会で実施、意思決定会義で内容を承認)。両方が実施できていれば、集計作業自体は容易であり、多くの大学で応用が可能であると思われる。

## 参考文献

中央教育審議会大学分科会大学教育部会(2016)『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン』  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/038/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/04/25/1369683\\_04.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/038/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/04/25/1369683_04.pdf) (最終閲覧日:2017年1月12日)

橋本智也(2016)「ディプロマポリシーを根拠に基づいて見直す:単位配分・成績評価・履修登録データを用いた検証作業」『高等教育質保証学会第6回大会発表資料集』,36.  
 (ポスター発表、東洋大学白山キャンパス、2016年8月)

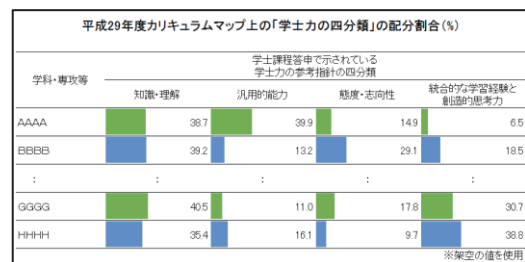


図 2 学士力の四分類単位での配分割合

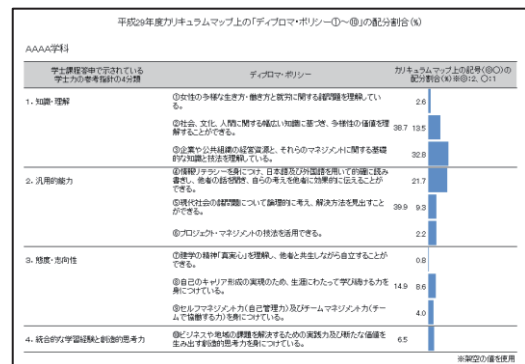


図 3 DP の項目単位での配分割合